

基礎解剖学

ナンバリング:N1-S1-B04

責任者・コーディネーター	看護専門基礎講座 塚本 恭正 准教授		
担当講座・学科(分野)	解剖学講座機能形態学分野		
対象学年	1	区分/単位数	講義・演習/2単位
期間	通期		

・学修方針(講義概要等)

我々の健康を維持するために必要な正常な人体の構造と機能を理解することは、人体がどのような仕組みで生命活動を維持する営みを行っているかを知ることだけでなく、病気の成り立ちや診断に対する、あるいは治療方針や看護計画などを立案する際の基礎知識ともなる。そのため、解剖学では、人体の形態と構造について系統的に学修するなかで、人体の成り立ちの基本原則と人体の構成要素である各器官の組織構築を、細胞・組織・器官の各レベルで統合的に学修する。また、それらが相互に密接に連携しながら機能している生命体としての人間を理解する。

・教育成果(アウトカム)

正常な人体の基本構造を構築している各器官系、これら器官系を構成する個々の器官・組織・細胞とそれらの周囲の構造・物質について補助教材で事前学修を行ったのちに、体系的に組まれた講義を、事前に用意されたテキストに能動的に書込みながら視聴し、さらに講義後にワークブックを用いて確認、整理する作業を行うことを通じて、医療関連従事者に要求される人体への理解と疾患等との関連性を考える導入基盤が形成される。また人体を構成する諸器官の内眼的構造から微細構造までを生理的機能との関連性を理解しながら包括的に捉え、病気の成り立ちや診断の基盤、あるいは治療方針や看護計画などの立案をする際の基盤が形成される。さらに講義の中で提供される内容から日常生活における人体の構造に起因する解剖学的視点での人体の行動や生理を意識的に捉える習慣が獲得できる。講義・演習中のグループワークあるいはグループ内ディスカッションを通じて、チーム医療の礎となるコミュニケーションスキルの向上や協調性の重要性を認識できる。特に演習においては、実際の骨や臓器などを触れながらグループディスカッションを行うことで、それらの動きや機能について三次元的に理解できる。WebClassで指示した補助教材や演習問題(課題)を利用した予習・復習を行うことで自己学修の記録をまとめることを習慣づけられると共に、講義ごとに理解不足のポイントを自己認識し、次回の講義の際あるいはWebClassを用いて教員とフリーディスカッションすることで、人体の構造と機能を理解する方略を獲得できる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

本科目は、本学部の以下のディプロマ・ポリシーに関連する。

1	医療人としての全人的人間性を持ち、豊かな教養を身につけ、常に自分を振り返る、謙虚な態度を持つ。
---	---

・到達目標(SBO)

1. 看護の視点から人間について総合的に捉え説明できる。
2. 基本的な人権の尊重について理解し、遵守できる。
3. 看護に必要な人体の構造と機能について説明できる。
4. 看護に必要な人体の防御システムについて説明できる。
5. 看護に必要な栄養と代謝について説明できる。
6. 自己学修や自己教育力が専門職には重要な要件であることを説明できる。

・授業日程

【講義】 会場：(矢)西1-A講義室、(矢)西4-A・B実習室、(矢)西4-C・D実習室

月日 曜日 時限	授業内容/到達目標	担当教員
4/28 火 3限	<p>【授業内容】基礎解剖学総論(「人体の構造と機能」を学ぶ上で必要な考え方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活における身体の状態や動き、各器官の機能について解剖学的思考で捉える事ができる ・日常生活の行動に対する解剖学視点からの理解が臨床看護の基礎となっていることを説明できる ・人体の構造を表現する用語を理解し、その意味を説明できる ・体表から臓器の位置を想定できる ・人体の各部位の名称や身体を構成する器官系を列挙できる <p>【関連するSBO】1、2、3、6</p> <p>【事前学修:60分】WebClassで提示する解剖学カラーリングアトラスの指定ページ課題を実施し、指定ページの課題をWebClassにて提出すること</p> <p>【事後学修:60分】臨床に必要な人体各部の名称について分類し要点をまとめるWebClassで提示する「解剖生理学ワークブック」の指定ページの課題を授業の解説を元に実施することで復習を行い、生理学の知識と統合して理解を深める</p>	解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授

<p>5/1 金 4限</p>	<p>【授業内容】人体を構成する組織(上皮組織、結合・支持組織)・皮膚の構造 ・人体を構成する組織の種類と特徴について説明できる ・上皮組織の種類とそれらが見られる器官系について説明できる ・結合・支持組織の種類と機能について説明できる ・軟骨の種類と組織学的特徴を説明できる ・上皮と結合組織の組織学的差異について説明できる ・皮膚の構造と機能、付属器官について説明できる 【関連するSBO】1、3、6 【事前学修:60分】WebClassで提示する「解剖学カラーリングアトラス」の指定ページ課題を実施し、別に指示する課題をWebClassにて提出すること 【事後学修:60分】WebClassで提示する「解剖生理学ワークブック」の指定ページの課題を授業の解説を元を実施することで復習を行い、生理学の知識と統合して理解を深める</p>	<p>解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授</p>
<p>5/12 火 3限</p>	<p>【授業内容】骨格と筋Ⅰ(骨学総論、関節の構造と筋) ・骨組織の基本構造と特徴について説明できる ・骨化の様式について説明できる ・関節の一般的構造について説明できる ・関節の多様性、関節の形態と動きの関連性について説明できる ・骨格筋と腱の関係について説明できる 【関連するSBO】1、3、4、6 【事前学修:60分】WebClassで提示する「解剖学カラーリングアトラス」の指定ページ課題を実施し、別に指示する課題をWebClassにて提出すること 【事後学修:60分】WebClassで提示する「解剖生理学ワークブック」の指定ページの課題を授業の解説を元を実施することで復習を行い、生理学の知識と統合して理解を深める</p>	<p>解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授</p>
<p>5/19 火 3限</p>	<p>【授業内容】骨格と筋Ⅱ(体幹を構成する骨と筋) ・椎骨の数・形態、部位による差異、周囲の骨との関連性について説明できる ・脊柱全体としての構造的意義について説明できる ・胸郭・骨盤の解剖学的特徴について説明できる ・胸部・腹部・背部を構成する筋についてその特徴を説明できる ・横隔膜の解剖学的特徴、呼吸筋の動きと呼吸・吸気との関連性を説明できる 【関連するSBO】1、3、6 【事前学修:60分】WebClassで提示する「解剖学カラーリングアトラス」の指定ページ課題を実施し、別に指示する課題をWebClassにて提出すること 【事後学修:60分】WebClassで提示する「解剖生理学ワークブック」の指定ページの課題を授業の解説を元を実施することで復習を行い、生理学の知識と統合して理解を深める</p>	<p>解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授</p>
<p>5/26 火 3限</p>	<p>【授業内容】骨格と筋Ⅲ(上肢・下肢を構成する骨と筋) ・上肢を構成する骨と筋の種類とそれらの位置的関係性、神経支配を説明できる ・肩関節・肘関節の構成と可動の特徴について説明できる ・下肢を構成する骨と筋の種類とそれらの位置的関係性、神経支配を説明できる ・股関節・膝関節の構成に関連する筋を可動の特徴と関連付けて説明できる ・筋肉注射に用いられる部位とその部位が選択される理由を説明できる 【関連するSBO】1、3、6 【事前学修:60分】WebClassで提示する「解剖学カラーリングアトラス」の指定ページ課題を実施し、別に指示する課題をWebClassにて提出すること 【事後学修:60分】WebClassで提示する「解剖生理学ワークブック」の指定ページの課題を授業の解説を元を実施することで復習を行い、生理学の知識と統合して理解を深める</p>	<p>解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授</p>
<p>6/2 火 3限</p>	<p>【授業内容】骨格と筋Ⅳ(頭頸部を構成する骨と筋、筋の分類と特徴) ・頭蓋骨を構成する骨と縫合、発生に伴う構造的変化について説明できる ・頭蓋底、眼窩、副鼻腔、顎関節の構造について説明できる ・表情筋・咀嚼筋、嚥下運動に関わる筋、頸部を構成する筋の種類や存在場所について説明できる ・筋組織の種類と組織学的特徴を説明できる 【関連するSBO】1、3、6 【事前学修:60分】WebClassで提示する「解剖学カラーリングアトラス」の指定ページ課題を実施し、別に指示する課題をWebClassにて提出すること 【事後学修:60分】WebClassで提示する「解剖生理学ワークブック」の指定ページの課題を授業の解説を元を実施することで復習を行い、生理学の知識と統合して理解を深める</p>	<p>解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授</p>

6/9 火 3限	<p>【授業内容】消化管の構造と機能Ⅰ（概論・上部消化管）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔から肛門までの消化管の配列、種類と位置を列挙できる ・消化管の一般構造について説明できる ・消化管の入口としての口腔の構造（歯・舌・咽頭含）と機能について説明できる ・食道と胃の解剖・組織学的特徴について説明できる ・食物の消化における胃から小腸への構造的連絡の特徴と機能的連携を説明できる ・消化管壁を構成する細胞から産生されるホルモンについて説明できる <p>【関連するSBO】1、3、5、6</p> <p>【事前学修：60分】口腔から肛門に至る消化管のつながりと特徴について調べる</p> <p>【事後学修：60分】各消化管の解剖学的特徴についてまとめる</p> <p>WebClassで提示する「解剖生理学ワークブック」の指定ページの課題を授業の解説を元に実施することで復習を行い、生理学の知識と統合して理解を深める</p>	解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授
6/16 火 3限	<p>【授業内容】消化管の構造と機能Ⅱ（下部消化管・消化器の付属腺）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小腸（十二指腸・空腸・回腸）の解剖・組織学的特徴について説明できる ・結腸～直腸・肛門までの解剖学的構造について説明できる ・肝臓の構造と機能について解剖・組織学的に説明できる ・膵臓の構造と機能について解剖・組織学的に説明できる ・消化管の付属腺から産生される消化酵素の種類・機能について説明できる ・腹膜、腹腔、腸間膜、直腸子宮窩などの構造的な概念を説明できる <p>【関連するSBO】1、3、5、6</p> <p>【事前学修：60分】WebClassで提示する「解剖学カラーリングアトラス」の指定ページ課題を実施し、別に指示する課題をWebClassにて提出すること</p> <p>【事後学修：60分】WebClassで提示する「解剖生理学ワークブック」の指定ページの課題を授業の解説を元に実施することで復習を行い、生理学の知識と統合して理解を深める</p>	解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授
6/23 火 3限	<p>【授業内容】呼吸器系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鼻腔の構造と機能的特徴について説明できる ・副鼻腔について説明できる ・気道の組織学的特徴と機能について説明できる ・気管支と肺葉の関係について説明できる ・肺胞を構成する細胞と機能的意義について説明できる ・縦隔とそこに存在する臓器について説明できる <p>【関連するSBO】1、3、6</p> <p>【事前学修：60分】WebClassで提示する「解剖学カラーリングアトラス」の指定ページ課題を実施し、別に指示する課題をWebClassにて提出すること</p> <p>【事後学修：60分】WebClassで提示する「解剖生理学ワークブック」の指定ページの課題を授業の解説を元に実施することで復習を行い、生理学の知識と統合して理解を深める</p>	解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授
6/30 火 3限	<p>【授業内容】血液</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血液の成分と機能について説明できる ・血球の種類と機能について説明できる ・血管の一般構造と動脈・静脈の組織学的特徴について説明できる ・造血器官について説明できる ・結合組織でみられる生体防御に関わる細胞とその由来・機能について説明できる <p>【関連するSBO】1、3、4、6</p> <p>【事前学修：60分】WebClassで提示する「解剖学カラーリングアトラス」の指定ページ課題を実施し、別に指示する課題をWebClassにて提出すること</p> <p>【事後学修：60分】WebClassで提示する「解剖生理学ワークブック」の指定ページの課題を授業の解説を元に実施することで復習を行い、生理学の知識と統合して理解を深める</p>	解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授
9/29 火 2限	<p>【授業内容】心臓の構造、血液循環Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肺循環・体循環について説明できる ・動脈・静脈・毛細血管の解剖学的特徴や異同を説明できる ・心臓の構造について説明できる ・冠状動脈・冠状静脈の走行の特徴について説明できる ・特殊心筋線維と心房・心室の収縮、ならびに心電図波形との関係を説明できる <p>【関連するSBO】1、3、6</p> <p>【事前学修：90分】WebClassで提示する「解剖学カラーリングアトラス」の指定ページ課題を実施し、別に指示する課題をWebClassにて提出すること</p> <p>【事後学修：60分】WebClassで提示する「解剖生理学ワークブック」の指定ページの課題を授業の解説を元に実施することで復習を行い、生理学の知識と統合して理解を深める</p>	解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授
10/20 火 2限	<p>【授業内容】血液循環Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大動脈弓から頭頸部に向かう血管の種類と化学受容器について説明できる ・脳底の動脈の解剖学的特徴について説明できる ・胸腹部に分布する動脈とその走行について説明できる ・上肢・下肢に分布する動脈とその走行について説明できる <p>【関連するSBO】1、3、6</p> <p>【事前学修：90分】WebClassで提示する「解剖学カラーリングアトラス」の指定ページ課題を実施し、別に指示する課題をWebClassにて提出すること</p> <p>【事後学修：60分】WebClassで提示する「解剖生理学ワークブック」の指定ページの課題を授業の解説を元に実施することで復習を行い、生理学の知識と統合して理解を深める</p>	解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授

10/27 火 2限	<p>【授業内容】血液循環Ⅲ・リンパ性器官</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上大静脈、下大静脈に注ぐ静脈の種類と走行について説明できる ・採血に用いる静脈とその解剖学的特徴について説明できる ・門脈系と側副循環路について説明できる ・胎児循環、胎児に特有の血管と出生後の変化について説明できる ・リンパ回収にかかわる特徴と全身のリンパの流れについて説明できる ・消化管に付随するリンパ性組織、脾臓、胸腺の解剖学的特徴と機能について説明できる <p>【関連するSBO】1、3、4、6</p> <p>【事前学修：90分】WebClassで提示する「解剖学カラーリングアトラス」の指定ページ課題を実施し、別に指示する課題をWebClassにて提出すること</p> <p>【事後学修：60分】WebClassで提示する「解剖生理学ワークブック」の指定ページの課題を授業の解説を元を実施することで復習を行い、生理学の知識と統合して理解を深める</p>	解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授
11/2 月 2限	<p>【授業内容】泌尿器系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腎臓・尿管・膀胱の位置と解剖学的特徴について説明できる ・腎臓、ネフロン構造について説明できる ・原尿、尿生成に関わる解剖学的特徴について説明できる ・腎臓と血圧調節の関係について説明できる ・尿管、膀胱・尿道の解剖・組織学的特徴について説明できる <p>【関連するSBO】1、3、6</p> <p>【事前学修：90分】WebClassで提示する「解剖学カラーリングアトラス」の指定ページ課題を実施し、別に指示する課題をWebClassにて提出すること</p> <p>【事後学修：60分】WebClassで提示する「解剖生理学ワークブック」の指定ページの課題を授業の解説を元を実施することで復習を行い、生理学の知識と統合して理解を深める</p>	解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授
11/10 火 2限	<p>【授業内容】内分泌系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内分泌系の特徴について説明できる ・内分泌器官・組織の存在場所について説明できる ・視床下部・下垂体、松果体の構造と産生されるホルモンの種類と機能について説明できる ・甲状腺と副甲状腺の構造と産生されるホルモンの種類と機能、カルシウム代謝との関係について説明できる ・膵臓ランゲルハンス島、副腎、生殖腺の内分泌細胞とそこから産生されるホルモンの種類と機能について説明できる <p>【関連するSBO】1、3、6</p> <p>【事前学修：90分】WebClassで提示する「解剖学カラーリングアトラス」の指定ページ課題を実施し、別に指示する課題をWebClassにて提出すること</p> <p>【事後学修：60分】WebClassで提示する「解剖生理学ワークブック」の指定ページの課題を授業の解説を元を実施することで復習を行い、生理学の知識と統合して理解を深める</p>	解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授
11/17 火 2限	<p>【授業内容】神経系Ⅰ（神経学総論・脊髄・脳幹・間脳・小脳）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニューロンの構造と特徴について説明できる ・グリア細胞の種類とその役割について説明できる ・有髄神経線維と無髄神経線維の構造と機能について異同を説明できる ・脊髄の構造と機能について説明できる ・脳幹・間脳・小脳の解剖学的特徴と機能について説明できる <p>【関連するSBO】1、3、6</p> <p>【事前学修：90分】WebClassで提示する「解剖学カラーリングアトラス」の指定ページ課題を実施し、別に指示する課題をWebClassにて提出すること</p> <p>【事後学修：60分】WebClassで提示する「解剖生理学ワークブック」の指定ページの課題を授業の解説を元を実施することで復習を行い、生理学の知識と統合して理解を深める</p>	解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授
11/24 火 2限	<p>【授業内容】神経系Ⅱ（大脳、脳神経、脊髄神経、自律神経）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大脳の構造と機能について説明できる。 ・ウェルニッケ野・ブローカー野について説明できる ・脳室と髄膜、脳脊髄液の循環について説明できる ・脊髄神経の種類とその支配領域について説明できる ・脳神経とその支配機能について説明できる ・自律神経（交感神経・副交感神経）の構造と機能の特徴について説明できる <p>【関連するSBO】1、3、6</p> <p>【事前学修：90分】WebClassで提示する「解剖学カラーリングアトラス」の指定ページ課題を実施し、別に指示する課題をWebClassにて提出すること</p> <p>【事後学修：60分】WebClassで提示する「解剖生理学ワークブック」の指定ページの課題を授業の解説を元を実施することで復習を行い、生理学の知識と統合して理解を深める</p>	解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授

12/1 火 2限	<p>【授業内容】感覚器系(視覚・聴覚・平衡覚・味覚・嗅覚器)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・眼球の構造について説明できる ・眼房水の産生と代謝、緑内障との関係について説明できる ・視細胞の種類と機能、色弱や色盲との関係について説明できる ・眼筋、眼球付属器の構造・機能について説明できる ・外耳、中耳、内耳の構造について説明できる ・聴覚・平衡覚器とその構造・機能について説明できる ・味蕾・嗅覚器の存在部位、神経支配を説明できる <p>【関連するSBO】1、3、6</p> <p>【事前学修:90分】WebClassで提示する「解剖学カラーリングアトラス」の指定ページ課題を実施し、別に指示する課題をWebClassにて提出すること</p> <p>【事後学修:60分】WebClassで提示する「解剖生理学ワークブック」の指定ページの課題を授業の解説を元を実施することで復習を行い、生理学の知識と統合して理解を深める</p>	解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授
12/8 火 2限	<p>【授業内容】生殖系(男性生殖器・女性生殖器)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性・女性生殖器の解剖学的位置について説明できる ・精巣の構造、精路と付属腺の構造と機能について説明できる ・卵巣・卵管・子宮の構造と機能について説明できる ・子宮内膜の周期性とホルモンの関係について説明できる ・胎盤の構造について説明できる ・男性と女性の外陰部・会陰の構造について説明できる ・常染色体と性染色体について簡単に説明できる <p>【関連するSBO】1、3、6</p> <p>【事前学修:60分】WebClassで提示する「解剖学カラーリングアトラス」の指定ページ課題を実施し、別に指示する課題をWebClassにて提出すること</p> <p>【事後学修:60分】WebClassで提示する「解剖生理学ワークブック」の指定ページの課題を授業の解説を元を実施することで復習を行い、生理学の知識と統合して理解を深める</p>	解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授

【演習】

7/16 木 3限	<p>【授業内容】人体を構成する骨と関節(骨学演習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身の骨を列挙できる ・各骨の構造的特徴を説明できる ・各関節を構成する骨とそれらの動きを形態的特徴から説明できる ・上肢・下肢を構成する骨の異同を説明できる ・頭蓋を構成する骨が持つ孔、裂等の通過構造物を説明できる <p>【関連するSBO】1、2、3、6</p> <p>【事前学修:90分】人体を構成する骨の種類と解剖学的特徴についてこれまでの講義を振り返る</p> <p>【事後学修:90分】胸郭、骨盤、上肢と下肢の関節の解剖学的特徴についてまとめる</p>	解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授
12/14 月 3限	<p>【授業内容】人体の解剖学総まとめ(解剖体見学)1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胸腔・腹腔に存在する臓器を列挙でき、その解剖学的特徴を説明できる ・上肢・下肢を構成する筋肉を列挙し、関節の動きとの関係を説明できる ・上肢・下肢の筋肉と筋肉注射の位置との関係を説明できる ・心臓・肺・脳の構造を説明できる ・消化管各部の特徴を整理し、異同を説明できる ・主要な動脈と神経の走行を説明できる ・実際の臓器や血管などに触れる事でこれまでに学習してきた解剖学的特徴について整理し、定着を図る <p>【関連するSBO】1、2、3、4、5、6</p> <p>【事前学修:60分】これまでに学修した各臓器が存在する位置についてこれまでの講義を振り返る</p> <p>【事後学修:90分】胸腔と腹腔内に存在する臓器の配置や胸膜・腹膜との関係について簡潔にまとめる</p>	解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授
12/17 木 3限	<p>【授業内容】人体の解剖学総まとめ(解剖体見学)2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胸腔・腹腔に存在する臓器を列挙でき、その解剖学的特徴を説明できる ・上肢・下肢を構成する筋肉を列挙し、関節の動きとの関係を説明できる ・上肢・下肢の筋肉と筋肉注射の位置との関係を説明できる ・心臓・肺・脳の構造を説明できる ・消化管各部の特徴を整理し、異同を説明できる ・主要な動脈と神経の走行を説明できる ・実際の臓器や血管などに触れる事でこれまでに学習してきた解剖学的特徴について整理し、定着を図る <p>【関連するSBO】1、2、3、4、5、6</p> <p>【事前学修:60分】これまでに学修した各臓器が存在する位置についてこれまでの講義を振り返る</p> <p>【事後学修:90分】胸腔と腹腔内に存在する臓器の配置や胸膜・腹膜との関係について簡潔にまとめる</p>	解剖学講座 機能形態学分野 吉岡 望 准教授

・教科書・参考書等

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能① 第12版	坂井建雄 他	医学書院	2026
教	ネッター解剖学カラーリングテキスト(原著第3版)	J. T. Hansen/監訳 相磯貞和	南江堂	2025
教	2026年版「系統看護学講座」準拠 解剖生理学ワークブック	坂井建雄 他	医学書院	2026
参	みえる人体 構造・機能・病態	S. Parker/監訳 佐藤達夫 他	南江堂	2009
参	イラスト解剖学 第10版	松村譲児	中外医学社	2021
参	3ステップ解剖生理学	開道貴信	南江堂	2022
参	トートラ人体解剖生理学 原書11版	G. J. Tortora著/佐伯由香 他 編訳	丸善出版	2020

教:教科書

参:参考書

推:推薦図書

・成績評価方法

<p>【総括的評価】 前期、後期共に定期試験(多肢選択式)80%、課題実施とレポートの提出(骨学実習スケッチ・レポート、解剖体見学演習レポート、日々の予習課題の内容の完成度、指示に基づく要件を満たしているかなどの総合的な評価)20%、により評価を行う。</p> <p>【形成的評価】 前期・後期終了前にそれまでに行なった内容に関する演習課題を提供することで、理解度を確認する機会を設け、特に骨学演習、解剖体見学実習においては、人体の尊厳と倫理観についての自身の認識についてディスカッションの中で醸成を図るとともに、レポートについては後日フィードバックする。</p>								
DP	SBO	小テスト	定期試験	課題	GW	実技	その他	合計
1	1~6		80	20				100
合計		0	80	20	0	0	0	100
<p>〈備考〉</p>								

・特記事項・その他

<p>【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】</p> <p>(1)各講義の中で人体の解剖学的構造について教員が投げかけたテーマについて、自分自身の体験を振り返る機会あるいはディスカッションの機会を設ける。テーマは各講義内容の復習により生じた疑問だけでなく、生活の中で疑問に感じた人体の構造すべてを対象とする。このことにより日常生活や看護の中で人体の正常構造に対する興味を惹起する習慣を会得し、ディスカッションを通じた疑問の解決により、いっそうの人体構造の理解に繋げることができる。</p> <p>(2)各講義においては、解剖学カラーリングテキストから予習課題を提示し、WebClass を用いて成果物の提出を求め、講義ではその内容について、いっそうの理解を深めるための補足説明を行う。 デジタル化して課題提出を行うことにより、学生は学生自身が行なった成果物を手元に残すことができ、その成果物をみながら講義の中で行う説明・フィードバックを受けることができる。</p> <p>(3)レポート・演習提出物は評価後返却する。フィードバックは授業内あるいはオフィスアワーを通じて適宜実施する。</p> <p>(4)毎回、「基礎生理学」と共通の指定教材「系統看護学講座」準拠「解剖生理学ワークブック」の該当ページを講義内容に対応する復習領域としてWebClassで明示するので、指定ページの内容を元に復習を行うこと。その内容について、講義・演習等で理解度をチェックする。 このことにより、学生は生理学との関連性を考えながら、積極的に復習する動機付けを与える。</p> <p>(5)骨学演習、解剖体見学演習(実習)は、実際のヒトの骨やご遺体を用いて実施する。演習では、実際に人体の骨や臓器に触れながら2次元的な教材で学んだ内容についての三次元的構築と自然位での配置と機能との関係、また生命倫理に関わる思考と献体制度への理解について、学生同士あるいは学生と教員との間でディスカッションを適宜行いながら実施し、考えをまとめる時間を設ける。</p> <p>【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】 看護師(別表3):専門基礎分野 人体の構造と機能</p> <p>【実務家教員担当授業の有無、実務家教員の実務経験の内容及び授業との関連】 当該科目に関連する実務経験の有無 無</p>

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター	1	講義用スライド投影
講義	書画カメラ	1	講義用資料投影
講義	デスクトップパソコン(Apple iMac Retina 5K)	1	講義資料の作成等
講義	ノートパソコン(Apple PowerBookPro A1502)	1	講義のプレゼン、動画上映等